

令和6年度信濃教育会全県研究大会（塩尻西小学校 道徳）要項

1 研究テーマ 「自分事として深く考え、考えを更新していく過程を楽しむ道徳」

2 期 日 11月22日（金）

3 会 場 塩尻市立塩尻西小学校（〒399-0732 塩尻市大門五番町4-55）

4 共同研究者 信州大学教職大学院 特任教授 山浦 貞一 先生

5 日 程

受付	開会式 授業説明	移動	授業公開	移動	授業について 語り合う会	ミニ講演会	閉会式
多目的室			6年1組教室		多目的室		

13:15 13:30 13:50 14:00 14:45 15:00 15:30 16:40 16:50

(1) 受付（多目的室） 13:15～13:30

(2) 開会式・授業説明（多目的室） 13:30～13:50

- ① 開会のことば
- ② 主催者あいさつ
- ③ 諸連絡
- ④ 閉会のことば
- ⑤ 授業説明

(3) 授業公開（6年1組教室） 14:00～14:45

- ① 授業学級 6年1組（男子9名 女子15名 計24名）
- ② 授業者 伊藤あおい 教諭
- ③ 題材名「オリンピックについて考えよう」

(4) 授業について語り合う会（多目的室） 15:00～15:30

道徳の授業について、6年1組の子どもの姿、教師の関わり、参加された先生方ご自身のこれまでの実践等から語り合いたいと思います。

(5) ミニ講演会（多目的室） 15:30～16:40

講師 信州大学教職大学院特任教授 山浦 貞一 先生

(6) 閉会式（多目的室） 16:40～16:50

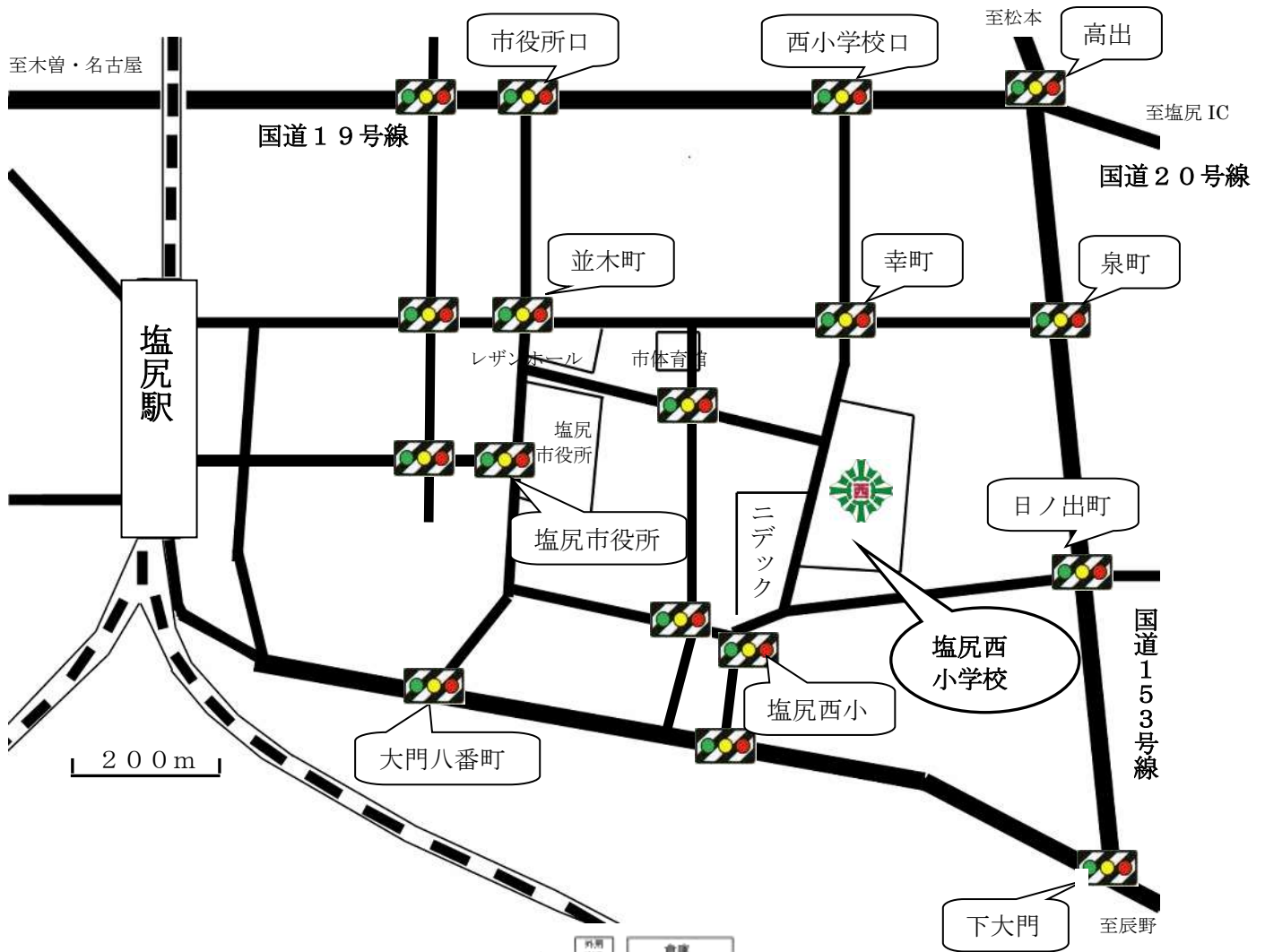
- ① 開会のことば
- ② 学校長挨拶
- ③ 諸連絡
- ④ 閉会のことば

6 その他

- (1) 自家用車で来校の方は、校舎西側駐車場をご利用ください。
- (2) 塩尻市教育センター（夢広場）入口よりお入りいただき、2階多目的室へお越しください。
- (3) 上履きをご持参ください。

塩尻市立塩尻西小学校 担当：中村 聡士（教頭） 電話：0263-52-0147 FAX：0263-52-7978

塩尻市立 塩尻西小学校 案内図



《研究テーマ》

自分事として深く考え、
考えを更新していく
過程を楽しむ道徳

塩尻市立塩尻西小学校 伊藤あおい



これまでの道徳授業



なんでも良しとして、
とんち回答や方法論を
ありとしている授業

教師自身も悩むような
内容ではない授業

個人→グループ共有
→全体共有という形
にとらわれ、ひとり
ひとりに必要な時間
を削ってしまう授業

全体への発問が多く、
じっくり考えることの
できない授業

教科書を使って、
教科書の発問通りに
進めていく授業

①きれいで 終わってしまう授業

いわゆる「良い答え」が
分っていて、それを表現
することが正解であるよ
うに感じる。

②自分事として考え、 本心を表現できない授業

問題意識を持たず、
ありきたりな考えを表現
するだけの授業。



子どもたちは、一般的な「良い子」の答え・教師が望む姿に寄ろうとし、道徳的価値について深めたり、広げたりすることはできていない。

子どもたちを不自由にしていたこと



問題意識をもてない題材

子どもたちが「解答」を出そうとしてしまう

「考えるまでもない」ことや「どんな考えでもいいよ」と言われたことは子どもたちを不自由にしている。

子どもたちが悩んで、「もっと考えたい!」と思える題材を見つけられていない。

形成的評価の欠落

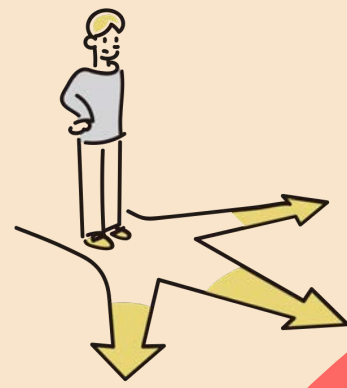
児童が探求する中で最適な後押しが必要

道徳に限らず、子どもたちは思考し続けている。正解・納得解を求めていく中で、一人一人に必要なリフレクションは異なる。

活動内での適した評価が欠落している。

発問が多くなったり、教師の出番が多くなるのも、必要のないことを考えさせる「余計なお世話」になっている。

今年度の授業工夫 (導入～展開)



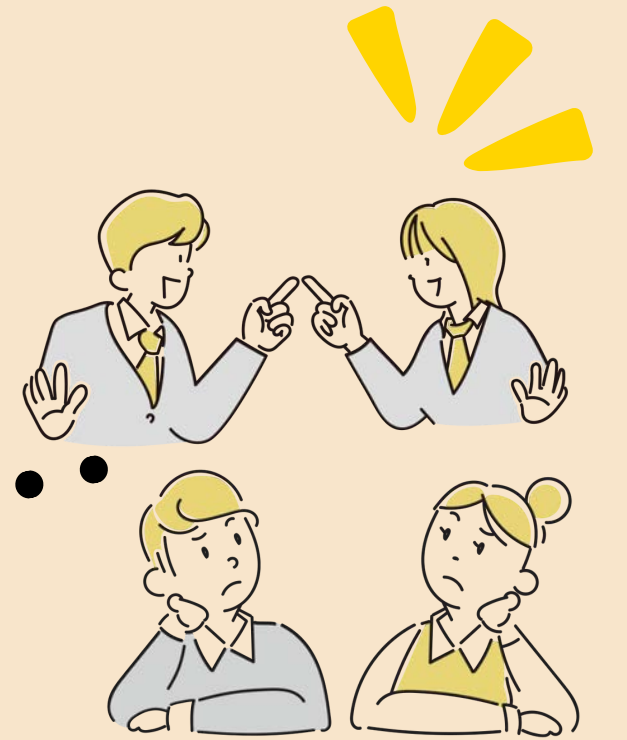
適切な形成的評価で
その子に合った支援
を行う。

「問題解決的な学習」
を軸に、友だちの考えを
聞きたくなってしま
うような題材選び。

一人でじっくり考えを
更新するもよし、
友だちと話しながら考えを
更新するもよし
とした環境づくり。

子どもたちが
考えを更新する
中で、必要とす
るであろう資料
の準備・情報の
精選

話さずとも他の思いに
触れられる共有方法。



今年度の授業工夫 (展開～終末)



振り返りシートで
子どもたちが自身が自
分で評価をする。

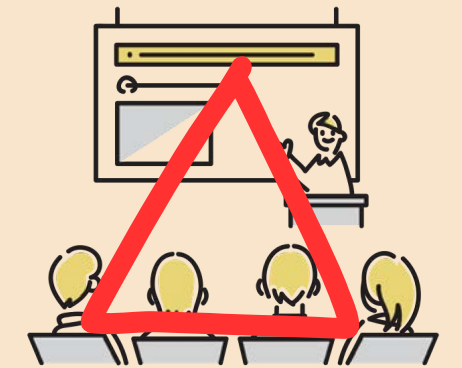
多角的な思考から
考えが深まるような工夫



子どもたちが
考える内容を
焦点化するための
教師の出方。



子どもたちが、じっくり
考えられるように全体共
有の時間を少なく。



教師の望む答えを
出そうとしないように
するための教師の引き方。



重点を置いた部分1

子どもと一緒に考える時間 になるような題材

題材は、子どもたちが「もっと考えたい!」と思い、大人も悩んでしまうようなものを選び、一緒に考えられる時間にする。

ねらい通りではなく、こちらも本心で子どもたちと向き合うことにつなげる。

実際に取り組んだ題材例

パリオリンピック
ブキニスト (青空書店)
の撤去について



実家の仕事を継ぐべきか、
かなうかわからない夢を
追うか悩んでいる
ドキュメンタリー



パン屋さんで犬連れのお客さんを見かけたとき、
伝えるべきか悩むアニメ
(あたしんち)

適切な形成的評価で リフレクションの必要性を見極める

正解・納得解を求めていく中で、一人一人に必要なリフレクションは異なる。

活動内で、一人一人に適した評価をすることで、教師の出番を減らし、必要のないことを考えさせる「余計なお世話」をなくしていく。

実際に取り組んだリフレクション方法

課題提起後、全体の取りかかりを確認。
リフレクションの必要性を判断する。



必要と思われる内容について、最適なやり方で後押になるよう支援する。



活動を見守る。

重点を置いた部分2

ねらいとする道徳的価値へ 焦点化するための教師の出方

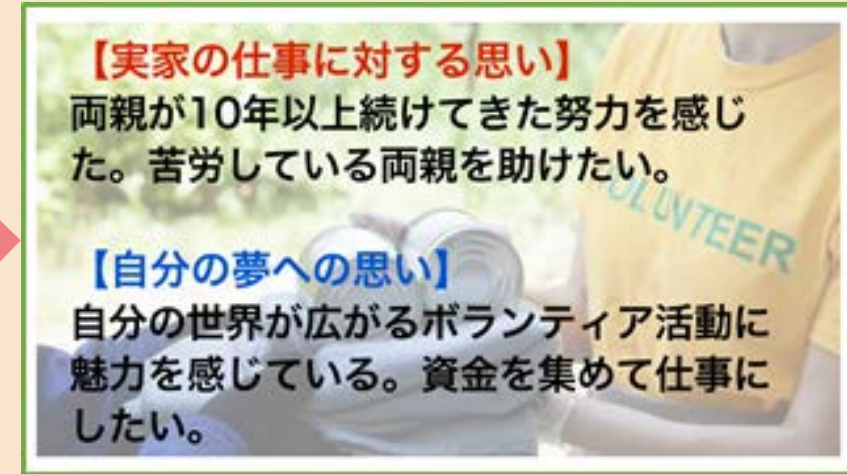
子どもたちが自由に活動するだけでは、ねらいとした道徳的価値から離れ、解決策を見つけようとする事が分かった。そこで必要なのは、適切なタイミングでそれぞれに適切な情報を与え、論点整理につなげる教師の出方である。

実際に取り組んだ出方

黒板にカテゴリ分けをしながら、子どもたちの意見を板書をする。

自分とは違った角度から考えている友だちの意見を伝える。

余計な情報理解のために 時間を使わない適切な情報の精選



子どもたちに与える情報が多ければ多いほど、情報理解に時間を割いてしまう。事前に、子どもたちが道徳的価値について思考するために必要な情報のみを教師が精選する必要がある。

実際に取り組んだ精選方法

題材について一度自分自身での納得解を出すよう試みる。

納得に至るまでに、自信を悩ませる原因となる理由や情報を探す。

探した情報の中から、今回の道徳的価値についての思考につながる情報のみに精選する。

研究発表当日の内容

今年度の道徳授業を通して、子どもたちが主体的に考えを更新していくために必要だと感じる3つのポイントを見つけました。

当日は、オリンピックを題材にして活動を行う予定です。

- ① 選択した題材は、大人も考えるようなものになっているか。
- ② 児童に与えた情報とその量は適しているか。
- ③ 納得解に向かっていく過程で、最適なリフレクションと、論点整理がされているか。

この3点に注目してご覧いただければと思います。よろしくお願ひいたします。



題材選択

情報精選

評価と論点整理



自分事として深く考え、
考えを更新していく過程を楽しむ道徳